

## 研究課題名

芽胞形成菌を中心とした食中毒起因菌の疫学分析と検査法の確立及び病原因子の解明に関する研究

## 研究の概要

芽胞を形成する食中毒起因菌においては、遺伝子検査や機器分析などの新しい技術を用いた検査法が十分に検討されているとは言えない。さらに、新型エンテロトキシン産生性ウェルシュ菌等の新しい下痢原性毒素産生菌等が分離されており、従来の検査法では検査が困難な食中毒事例が発生している。一方、病因物質不明の食中毒事例等の中に、病因物質として特定されなかったが、患者から有意に分離された細菌が分離された事例等が存在する。2002年、2019年には都内においてProvidencia alcalifaciensが原因と推定される食中毒事例が発生しているが、未だ本菌の病原性に関しては不明な部分も多い。

そこで、本研究では、芽胞菌や病因物質不明の食中毒事例等から分離された菌等の疫学解析、検査法の検討やさまざまな菌体の性状や病原因子の解析を行うことにより、食中毒の拡大防止に寄与することを目的とする。そのため、食中毒検査検体から分離された菌株を用いて菌株の性状、遺伝子学的解析および検査法の検討等の研究を行う。また、食中毒検査において残った検体を用い、検査法の検討を行う。

## 研究期間

令和3年度から令和5年度まで

## 研究機関の名称及び研究機関の長

東京都健康安全研究センター  
所長 吉村 和久

## 研究責任者の氏名

微生物部食品微生物研究科  
門間 千枝

## オプトアウト

「保有個人データの研究使用の停止申請」により当研究から除外が可能である。